

## ワイキチ？



小樽市医師会  
小樽老人保健施設はまなす

門野 雅 夫

「ワイキチ」。突然この言葉を聞き、何のことだろうと思う方がほとんどだろう。実は「ハワイアン音楽」をこよなく愛し、それにぞっこんのめり込んでいる「ハワイアンキチガイ」の輩の略称で、後年、ハニー・アイランダーズの大橋節夫氏から聞いた言葉である。

実は小生もその一人で、バンドを組み、スチールギターを担当していた。われわれ学生時代（60数年前）は、ハワイアン全盛期であった。安価な弦楽器の編成で、趣味を共にした友人同士でバンドも組み易く、また、当時は各大学に必ず一つはハワイアンバンドがあった。余暇を利用しては練習し、時々、各大学の運動部主催のダンスパーティに出演する機会もあり、図々しくも下手丸出しで演奏していたが、今にして背筋が凍る思いである。

他大学のバンドと共演する時もあり、その都度、彼らの音の素晴らしさを感じ、自分たちの音には全然進歩は見られなかった。所詮「下手の横好き」で始めたため、やはり不完全な弦のチューニングや正確なコード進行およびテクニックの欠如等が進歩を妨げてきたと後年気付いた。進歩がないまま飽きも来ていたが、そうこうしているうち、学業の方も忙しくなり、まして医師になってからはその業務にも追われ、バンドどころではなく、いつしかハワイアンのことも忘れていた。

それから30年くらい経った時だろうか、ハワイアンのライブの店に顔を出したところ、そこには専属のプロがいた。また、昔、ほかの大学の顔見知りのバンドマン連中や、中年のワイキチ連中も多数いて、彼等はセミプロのレベルになっており、そこで「札幌ハワイアン同好会」なるものを結成していた。私も早速入会し、ここで初めてプロやセミプロたちと音合わせをさせてもらった。正確なチューニングとコード進行でリズムを刻む彼らのバックの音に、スチールの音は乗せやすく、彼等は演奏全般をリードしてくれる存在であった。学生時代のバンドでは味わえないものがあつた。しかし、この時は既にハワイアンブームは過ぎ去っていた。同好会としては、時々中央よりプロを個々に呼び、これらを機に中央との接点が、以前に比べ非常に近くなっていた。また、上京の際には、プロの経営するライブの店を訪れると、やはりそこにはわれわれと同じ学生時代バンド活動をしていたワイキチの人たちも見えており、プロをバックに演奏されていた。後日、私もその仲間に入れてもらった。かつては、レコード・ラ

ジオ・テレビの世界の人たちであった中央のプロと目の前で話ができ、また、共演もできる等、学生時代とは隔世の感があつた。しかし、小生69歳の時、現在の介護施設を託され、以来13年あまり、拘束の状態になったため、ハワイアンの演奏活動はできなくなつた。ふと気付けば、80半ばに迫る年齢になりつつあり、かつてのワイキチ青年も意欲はもちろんのこと、気力・体力等も衰えた老人になってしまつていた。ただただ過去を懐かしむのみである。

## オリンピックの年と都市



札幌市医師会  
にしの内科クリニック

鈴木 勇

今年は2回目の東京オリンピックの年です。巡り合わせで子年には夏のオリンピックがありますが、私が生まれた年はローマであつたようです。次の子年はミュンヘン、そしてロサンゼルス、アトランタ、北京、東京と続きます。あつという間です。今年還暦を迎えることになっていますが、大部分の患者さんはまだ私よりも年上です。それで還暦の感想などよりも20代で旅したローマのことを書きたいと思います。

ローマではかなり貧乏そうな格好で歩いていたのですが、それでもスリに遇いました。ぼろぼろの小銭入れに日本円にして50円くらいしか入れてなかつたのでスリもがっかりしたと思いましたが、バチカン市国で会つた日本の大学生にこの話をしたら、「イタリア人に背中を向けてはいけない」と教えられました。歩くときは壁を背にして歩くようにと。

街では遺跡の多さにも圧倒されましたが、働き方が日本とはだいぶ違う印象でした。街を歩く警察官はスリなどを取り締まる様子はなく、両替に行つた銀行では女の子と話すのに夢中な男性銀行員に随分待たされました。一瞬いらつとはしましたが、彼の優先順位に同意できない訳でもなかつたので、これもありかという心境でした。

ローマでの最後の滞在日の夕方、ホテルの部屋が暑くてテルミニ駅前夕方涼みをしていたら、荷物を置き引きされたいらしいお婆さんが大声で叫んでいるのが聞こえてきました。事情を聞きに駆け寄つた駅員の青年に「パスポート…」とか訴えているようでした。スイカの屋台が出ていたので、一切れ食べて帰ろうと屋台のお婆さんからスイカを受け取り食べようとした瞬間、おいしそうな赤い部分がポロリと路上に落ちてしまいました。よほど悲しい顔をしたのか、何か分からない言葉をがやがや言いながら彼女がもう一切れ差し出してくれました。これで私のローマの印象はだいぶ良くなったのです。